

2024年4月28日 礼拝説教要旨

ハイデルベルク信仰問答講解説教Ⅱ 44 「義を慕う心」

詩編19：8～15、Iヨハネ3：1～3

問113 第十戒では、何が求められていますか。

答 神の戒めのどれか一つにでも逆らうようなほんのささいな欲望や思いも、もはや決してわたしたちの心に入り込ませないようにするという。かえって、わたしたちがあらゆる罪には心から絶えず敵対し、あらゆる義を慕い求めるようになる、ということです。

一般的に心に思うことは罪に問われることはありません。確かにそうです。心に思うことまで罪に問われるならば大変です。わたしたちは心の中が見えないことで助かることがあるかもしれませんが、しかし、そこで一人の人間の中に重大なことが起こっていることに多くの人々は気づいていません。そこでは心と体、心と行動が分裂しています。心に思っていることと行動がバラバラになってしまう。理性が働いて、行動が抑制されているのだからそれでいいのではないかと思うかもしれません。もちろんそこが人間と動物の違いのところでは。

けれども、こういうことはないでしょうか。人を妬ましく思うこと、誰かを羨むことがあります。その時に表面では喜んでるふりをするかもしれません。笑顔で「おめでとう」と言っても、内心は穏やかではないということはないでしょうか。そういう時、つくづく自分は嫌な人間だと感じます。わたしたちが自分を嫌いになる時というのは、大抵そういう時です。人の幸せを素直に喜べない。心から、純粋に、何かに打ち込んで行動することができない。どこかに下心がある。どこかで算段している自分がある。そういう自分に気づいた時に、わたしたちは自分の中の闇を知るのです。

そういう人の心の闇を描くのが創世記のカインとアベルの話です。アベルは羊を飼う者となり、カインは土を耕す者となりました。ある時、二人は神さまに献げ物をします。カインは土の実りを、アベルは羊の中から肥えた初子を献げます。神さまはアベルとその献げ物に目を留められますが、カインとその献げ物には目を留められませんでした。そのことで「カインは激しく怒って顔を伏せた」（創世記4：5）と書いてあります。このカインの怒りは何でしょうか。一つにはアベルに対する妬みからくる怒りと捉えることもできます。自分の献げ物が顧みられなかった。ところが弟のものは顧みられた。そこに嫉妬心が芽生える。アベルに与えられた神さまの祝福を素直に喜ぶことができない。それが怒りとなり弟を殺してしまう。

そういう罪の根をわたしたちは持っています。神さまはカインに言われました。「どうして怒るのか。どうして顔を伏せるのか。もしお前が正しいのなら、顔を上げられるはずではないか。正しくないなら、罪は戸口で待ち伏せており、お前を求める。お前はそれを支配せねばならない」（創世記4：6～7）と。誰かを妬ましく思うところからすでに罪は始まっています。ただ表面的に現れてくるところだけを正したとしても、この罪の根が残っている限り、問題は全く解決していません。信仰問答はその心の中に芽生えたほんの些細な罪の根を見逃していないのです。「神の戒めのどれか一つにでも逆らうようなほんのささいな欲望や思いも、もはや決してわたしたちの心に入り込ませない」とあります。誰も分からない、そのささいな思いが、神さまの戒めに逆らい、これを破ることへ繋がっていく。この罪の根、火種のような心のひだにまで分け入ること。そこから救われなければ、人間は本当に救われることにはならないのです。

心の中までは誰も分かりません。だからわたしたちは表面だけを取り繕うような生き方をしてしまいます。しかし人はごまかせても神さまはごまかせません。神さまは、心の中まで見透されるお方です。その神さまの御前に生きる時に、人は初めて心と体が一致することができます。パウロは「心の底から新たにされて、神にかたどって造られた新しい人を身に着け、真理に基づいた正しく清い生活を送るようにしなければなりません」(エフェソ4:23~24)と述べています。心の底から新たにされる、そのためには「神にかたどって造られた新しい人を身に着ける」ことが必要です。それはイエスさまに結ばれることに他なりません。具体的には悔い改めて洗礼を受けることですが、そこから人間の救いへの道は始まります。

洗礼は、イエスさまに結ばれることです。そこでわたしたちは、イエスさまの救い、十字架とよみがえりの命にあずかることができます。そして、そこから「あらゆる罪には心から敵対し、あらゆる義を慕い求めるようになる」そういう新しい生き方が始まるのです。そこに聖書の示す救いがあります。それは教会の言葉で言えば「聖化」です。

問114 それでは、神へと立ち返った人たちは、このような戒めを完全に守ることができるのですか。

答 いいえ。それどころか最も聖なる人々でさえ、この世にある間は、この服従をわずかばかり始めたにすぎません。とは言え、その人たちは、真剣な決意をもって、神の戒めのあるものだけではなくそのすべてに従って、現に生き始めているのです。

問115 この世においては、だれも十戒を守ることができないのに、なぜ神はそれほどまで厳しく、わたしたちにそれらを説教させようとなさるのですか。

答 第一に、わたしたちが、全生涯にわたって、わたしたちの罪深い性質を次第次第により深く知り、それだけより熱心に、キリストにある罪の赦しと義とを求めようになるためです。第二に、わたしたちが絶えず励み、神に聖霊の恵みを請うようになり、そうしてわたしたちがこの生涯の後に、完成という目標に達する時まで、次第次第に、いよいよ神のかたちへと新しくされてゆくためです。

信仰問答は、正直にわたしたちの救い、聖化は急激に起こるとは言いません。洗礼を受けた瞬間に劇的に変わることはない。「次第次第に」とあります。この世においては、徐々に、少しずつ神さまのかたちに変えられていく。でもそれでいい。その小さな一歩が始まっていることが重要なのです。キリスト者はその一歩をすでに踏み出しています。

天の父よ。心と行いが一致しないわたしたちです。けれどもあなたはわたしたちをイエスさまと結ばせてくださり、神さまにかたどって造られた新しい人を身につけさせてくださいます。そのようにして、わたしたちの身も心もあなたのもものとして、清め、整えてくださる恵みを感謝します。地上ではその歩みを始めたにすぎませんが、やがて完成されることを望み見して希望を持って歩むことができますように。主の御名によって祈ります。アーメン。